令和３年６月１日
ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ・ﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸ
推進対策特別委員会

東京2020大会後の有明聖火台のレガシー保存について（案）

1　経緯及び目的

○　東京2020大会の聖火台については、式典用と競技期間用の２台を製作

○　**競技期間用聖火台は、大会期間中**、競技会場が集中する大会を象徴するエリアで、世界各国のＴＶ放送を通じて大会や東京のイメージアップを期待できる**東京臨海部 夢の大橋有明側に設置**

○　**大会終了後は、大会期間中の設置場所または関連する場所に設置し、都がレガシー管理する方向で検討**

○　今後、競技期間用聖火台（有明聖火台）の保存場所について、IOC・IPCの承認を経て、貴重なレガシーとして活用し、大会の感動と記憶を後世に伝えていく。

2　保存場所等

（1）保存場所

○　大会期間中の設置場所である夢の大橋は、橋梁の維持管理やイベント会場等としての利用のため、恒久設置は困難

○　そのため、関連する場所として、**シンボルプロムナード公園（石と光の広場横）**をレガシー保存場所とする。（下記　位置図参照）

⇒　大会の貴重なレガシーとして、臨海部の新たな賑わい創出の要素として活用

＜選定理由＞

- 競技会場が集積する大会を象徴するエリアであること
- 大会期間中のオリンピックプロムナード上に位置し、恒久設置が可能であること
- 都民が自由に観覧でき、駅に近く、賑わいがあること

（2）再設置時期

令和４年中（再設置に向けた設計、施工などに１年程度かかる見込）

＜位置図＞